

二〇一四年「漢字与東亞文化」 国際学術研討会暨大韓中国学会年会 報告

張

莉

主催：大韓中国学会、東西大学孔子学院、韓国漢字研究所（慶星大学）

日時：二〇一四年一月二十九日～二月一日

場所：韓国、釜山、東西大学 Centum 校区

一 学術検討会の目的と意義

大韓中国学会は一九八三年に創設され、目下四〇〇余名の会員がいる。韓国で「中国学」を核的に行う機関である。大韓中国学会の会長河永三教授（慶星大学）が中心となり、東亜共同文化圏の著名学者（韓国・中国・香港・台湾・日本・ベトナム）が一堂に会して研究発表を行うことが本大会の目的である。

今回の国際学術会議の主題は以下の通りである。

- ① 東アジア各国漢字近代歴史的影響
- ② 目前の東アジア各国漢字使用現状と問題
- ③ 二〇一三年韓・中・日三国三十人名士会（日本名、三十賢人会……韓国中央日報・中国新華社・日本読売新聞主導）共同提唱の韓・日・中において共通に使われる八〇八の漢字についての残っ

ている問題と解決法案

- ④ 漢字の工業化と応用 ※工業化……漢字のデザインと意味的なものをいろんな媒体に使用すること

- ⑤ 韓・中・日の漢字字典のデータベース

- ⑥ その他漢字の諸問題について

この検討会は漢字学者の研究以外に、設計・映画・書法・文化産業領域・人類学・社会学者の参加を通じて、漢字を巡って漢字学者と非漢字学者が共同研究をする。学問の領域を超えた「融合」研究を行う。

今回の大会では、基調講演三名、主旨講演一名、グループ発表一三名で行われた。基調講演は参加した代表学者の講演であり、主旨講演はそれぞれの国から招聘された学者の講演である。今回の検討会は韓国で第一回目として初めて行われたものであり、中国と日本ではまだ開かれたことがない。このような検討会が漢字の重要性の喚起・漢字の研究領域の拡大・漢字研究発展の補助となることを確信している。

二 日程

一月二十九日(土)

第一部 開幕式典

河永三(韓国、慶星大学教授・韓国漢字研究所所长・大韓中国学会会長)

……開幕宣言

張濟国(韓国、東西大学学長)

……歡迎の辞

臧克和(中国、華東師範大学教授・中国文字研究与応用中心主任)

……来賓挨拶

基調講演(司会・陳賢 慶星大学)

国名	香港	香港	中国	韓国
発表者	L. Pfister	傅根清	金載明	金載明
所属	USA : Hongkong Baptist Univ. 宗教哲学系教授、宗教比較哲学研究所長	中国海洋大学文学与新闻传播学院教授	慶星大学教授、前任数字設計研究生院院長	慶星大学教授、前任数字設計研究生院院長
講演題目	Questioning the Modern Emergence of "Zongjiao" 宗教 and "Zhéxué" 哲学 Modern Chinese Language and Cultures	漢字、東亜文化圈共同的創意宝蔵	Design Story	Design Story

第二部 主旨講演(司会・李景遠 漢陽大学)

国名	韓国	中国	台湾	越南	日本
発表者	全広鎮	王平	朱岐祥	丁克順	山元宣宏
所属	成均館大学教授	華東師範大学教授	東海大学教授	国立漢喃研究院副院長	宮崎大学准教授
講演題目	漢字教育与諾貝尔科学獎	東亜文化圈漢字字典文献的整理与研究	論繁体字和簡化字的縦線關係	越南漢字使用歴史与狀況	日本の公用漢字和其争論点

第三部 主旨講演(司会・李琮敏 慶星大学、梁楠 慶星大学)

国名	中国	韓国	韓国	韓国	日本	韓国
発表者	臧克和	郭魯風	高仁徳	宋鎮烈	出野文莉(張莉)	朴起徹
所属	華東師範大学教授	東方文化大学院大学教授	延世大学人文学研究院 H K 研究教授	東西大学教授	京都大学国際高等教育院非常勤講師	慶星大学広告系教授
講演題目	学人与書芸	漢字和書芸	漢字和權力『詩経』和「左図右書」	漢字和電影 : Peter Greenaway 《Pillow Book》的「肉体的書」	「文」字的民俗学方面字源考——白川静『积文』的再探討	漢字与 e-ducation c.

第四部 グループ発表

分組討論―①漢字学的諸多問題 韓国学者二名×四組(司会…姜鯨求 東義大学)

分組討論―②建立「東亜漢字字典字庫」 韓国学者五名(司会…李哲理 慶南大学)

分組討論―③東亜政治和経済 韓国学者二名×四組(司会…金東河 釜山外国語大学)

第五部 総会と閉幕式(司会…陳賢 慶星大学)

・総会と閉幕

・第一回「大韓中国学会学術賞」受賞典礼

・新会長選挙

・晩餐会(於：The PARK)

十一月三〇日(日)

文化考察(慶州―国立慶州博物館・天馬塚・天文台)

十二月一日(月)

韓国漢字研究所見学、離会

三 所感

二〇一四年八月二五日～八月二八日に福岡市志賀島で第二回世界漢字学会が開かれました。この学会に参加された中国・台湾・韓国・ベトナムの主要メンバーが今回の大韓中国学会にも参加されています。

た。台湾の朱岐祥氏、中国の臧克和氏、王平氏、韓国の河永三氏はそれぞれ台・中・韓を代表する学者で、それぞれの国の漢字学の発展を荷う人材です。

興味を引いた論文について簡単に報告しておきます。

まずは傅根清氏の「漢字，東亜文化圏共同的創意宝蔵」です。漢字のもつ形と意味を巧みに利用し、漢字をデザインとしてどのように使っていくかをいくつかの例を挙げて説明しています。王平氏は「東亜文化圏漢字字典文献的整理与研究」と題する論文の中で、中・韓・日のそれぞれの三国のすべての学者が使える字典、すなわちそれぞれの国の漢字の発展の様相をも含めた相互理解できるデータベースづくりの提唱をしました。朱岐祥氏は「論繁体字和簡化字的縦線關係」と題する論文の中で、繁体字と簡体字のそれぞれの長所と短所を挙げ、中国・台湾の漢字使用の今後取るべき道を示唆しました。宋鎮烈氏は「漢字和電影：Peter Greenaway『Pillow Book』的『肉体的書』」と題する論文の中で、子供の成長の儀式の際に顔に書かれた文字や死刑囚の胸に書かれた文字などの写真を示して例に挙げ、人体に書かれたさまざまな書についてその書が与えるイメージを分析しています。各々の論文はどれも新鮮で、漢字文化にはいろんな諸相があることを学ばせていただきました。

(京都大学国際高等教育院非常勤講師)



2014年「漢字與東亞文化」國際學術研討會暨大韓中國學會年會（大韓中國學會）論文集



①傅根清氏「漢字、東亞文化圈共同的創意寶藏」15頁



②傅根清氏「漢字、東亞文化圈共同的創意寶藏」23頁



③宋鎮烈「漢字和電影：Peter Greenaway《Pillow Book》的“肉體的書”」121頁



④宋鎮烈「漢字和電影：Peter Greenaway《Pillow Book》的“肉體的書”」125頁